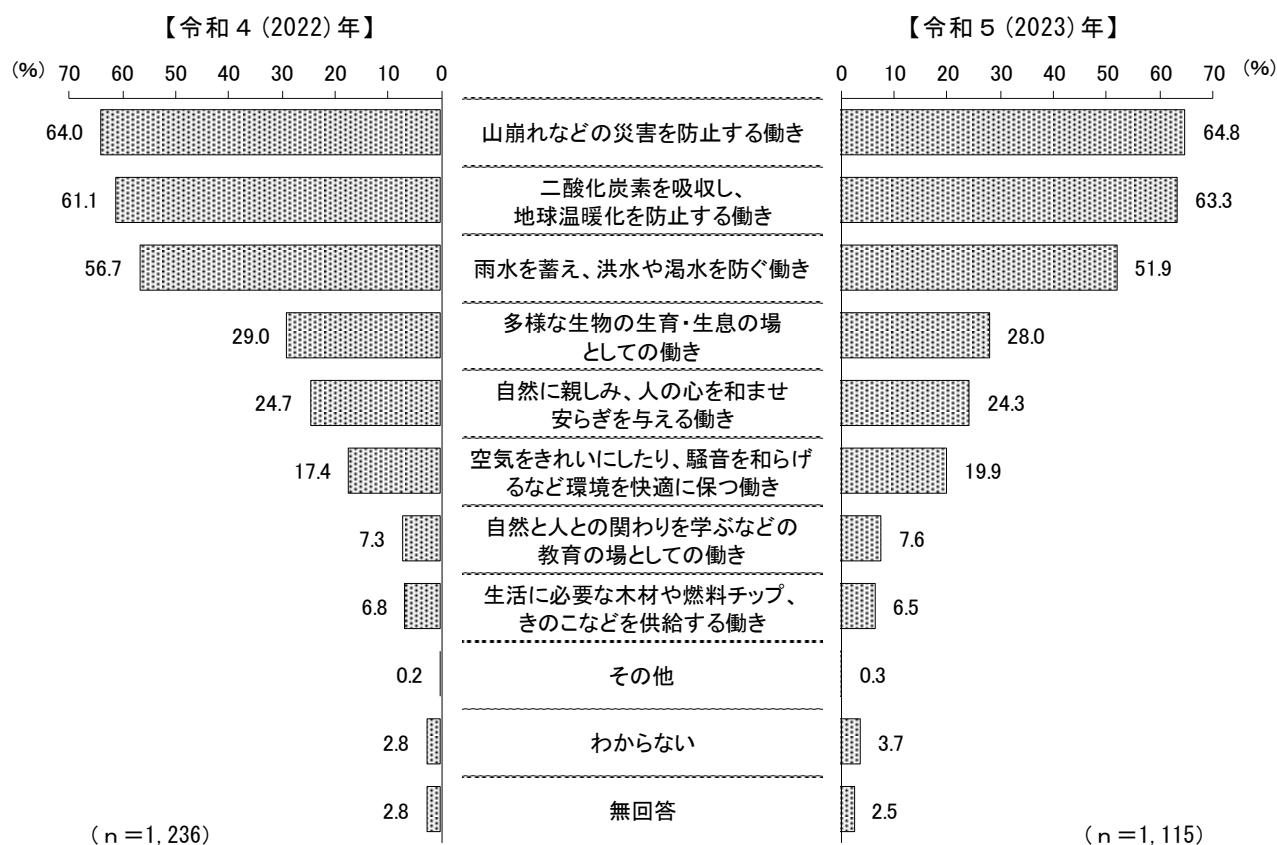


8 とちぎの元気な森づくり県民税について

(1) 重要と考える森林の働き

問24 森林には、様々な働きがあります。あなたが特に重要だと考える森林の働きはどれですか。次の中から3つまで選んでください。 [n=1,115]

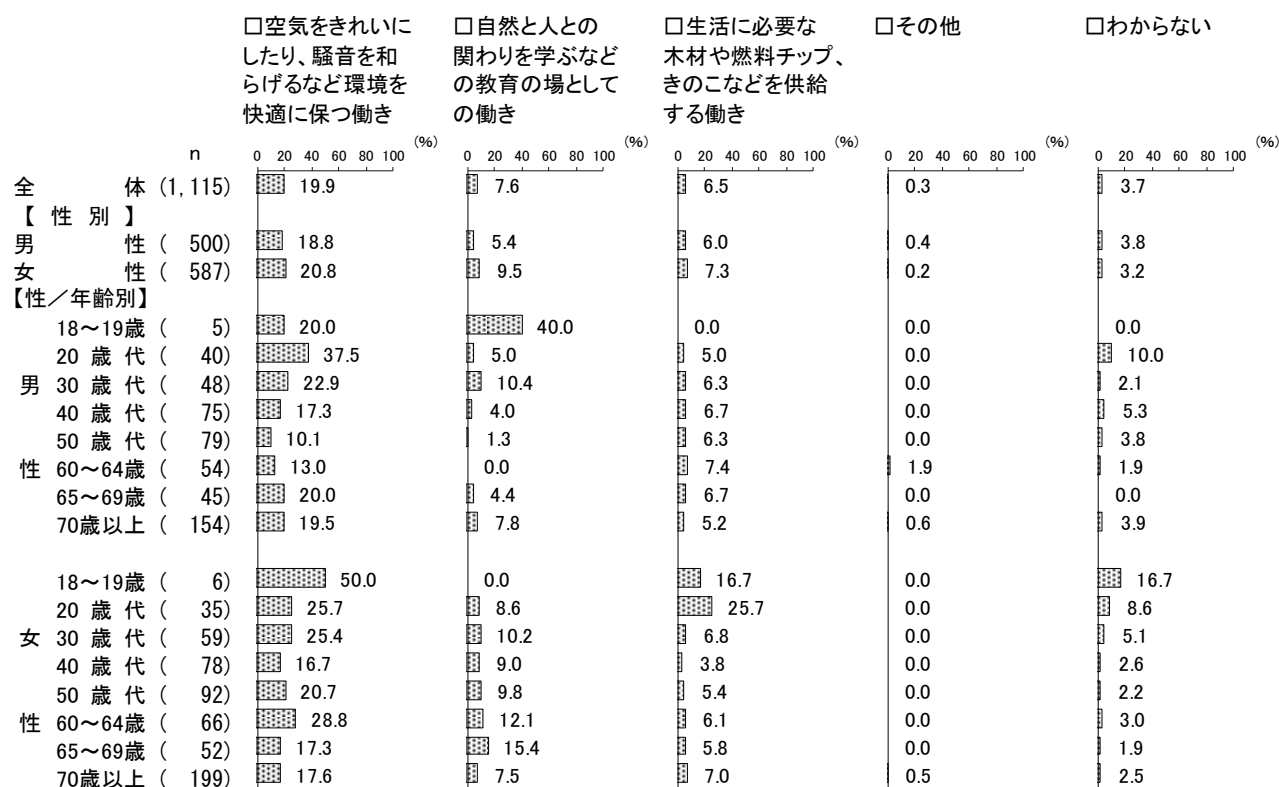
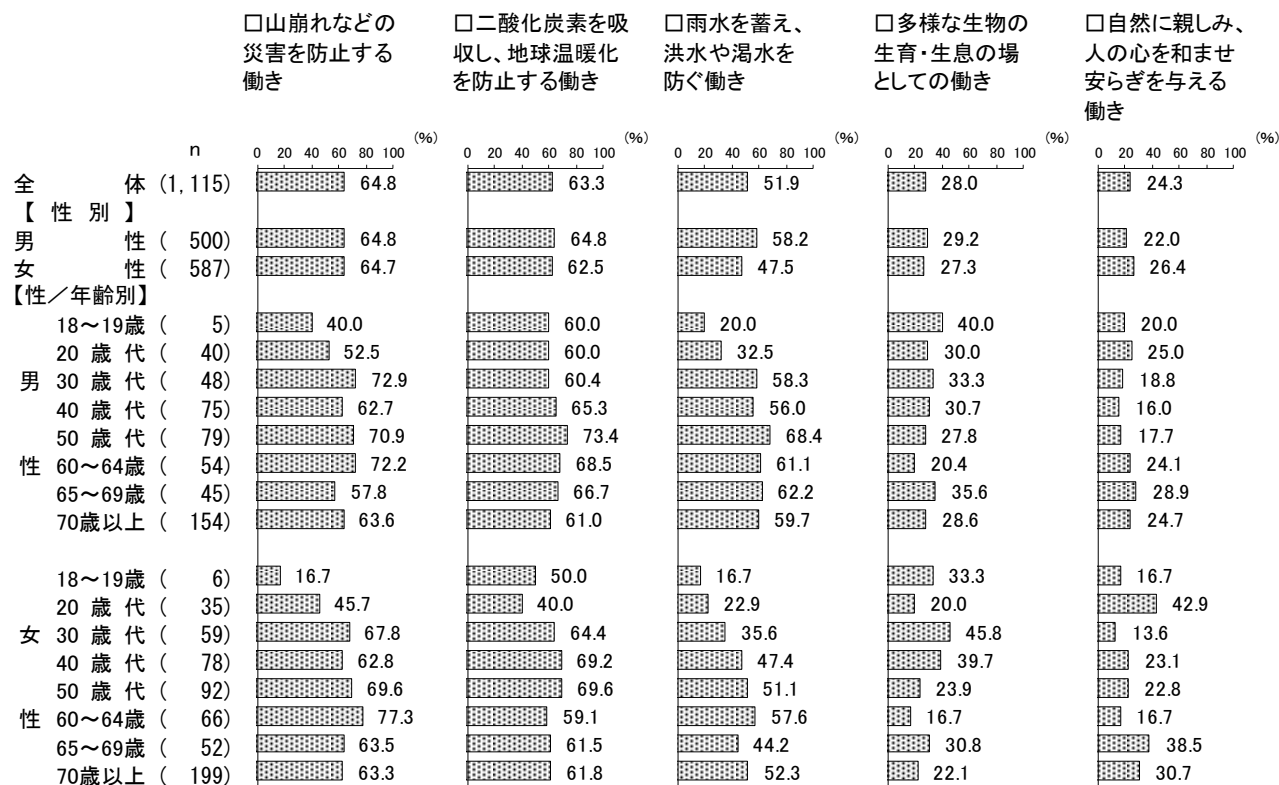
1	山崩れなどの災害を防止する働き	64.8%
2	雨水を蓄え、洪水や濁水を防ぐ働き	51.9
3	二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き	63.3
4	空気をきれいにしたり、騒音を和らげるなど環境を快適に保つ働き	19.9
5	生活に必要な木材や燃料チップ、きのこなどを供給する働き	6.5
6	多様な生物の生育・生息の場としての働き	28.0
7	自然に親しみ、人の心を和ませ安らぎを与える働き	24.3
8	自然と人との関わりを学ぶなどの教育の場としての働き	7.6
9	その他	0.3
10	わからない	3.7
	(無回答)	2.5



全体で見ると、「山崩れなどの災害を防止する働き」(64.8%)が6割台半ば近くで最も高く、次いで「二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き」(63.3%)、「雨水を蓄え、洪水や濁水を防ぐ働き」(51.9%)の順となっている。

前回(令和4(2022)年)の調査結果と比較すると、「雨水を蓄え、洪水や濁水を防ぐ働き」が4.8ポイント減少している。

[性別・性／年齢別]

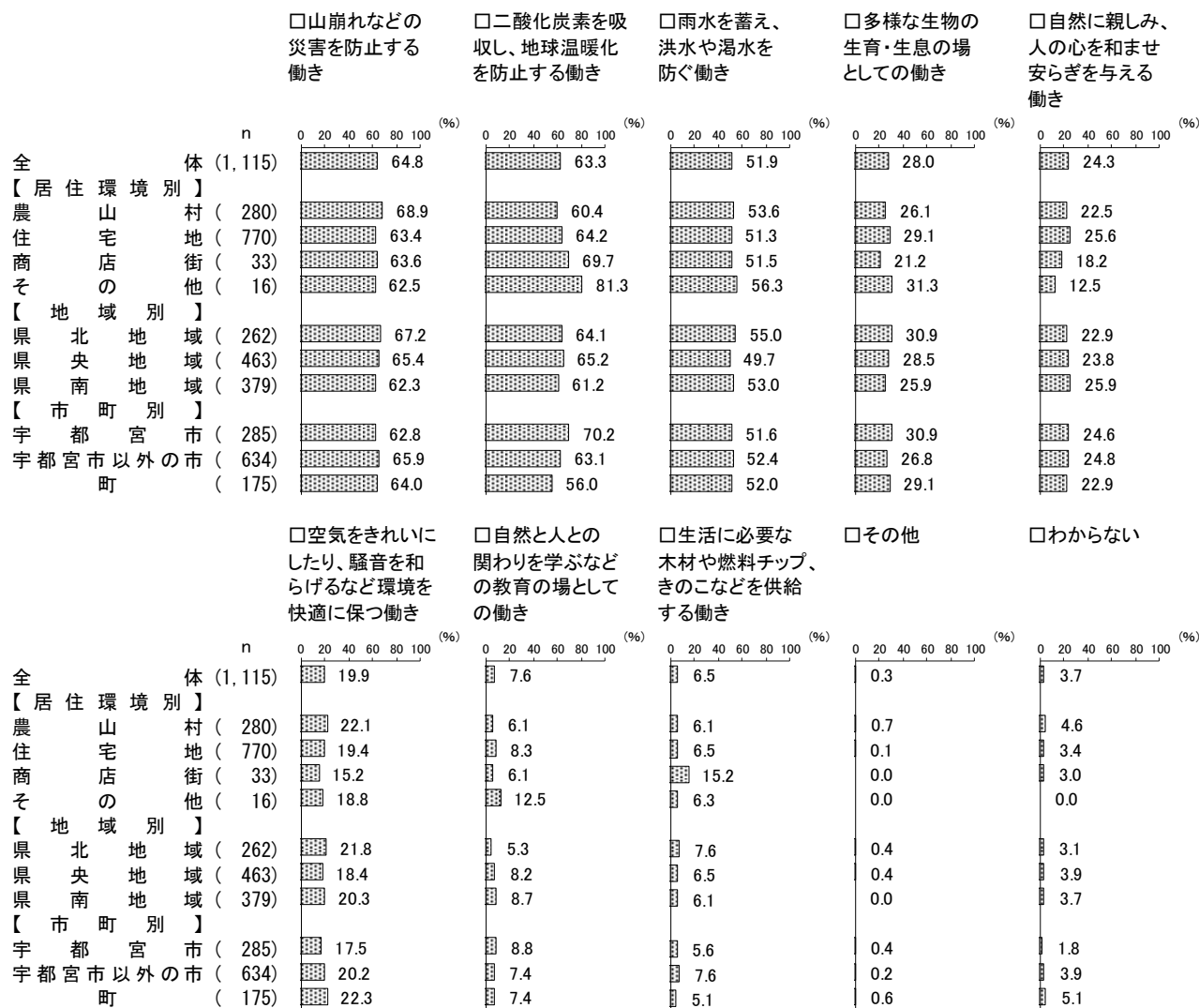


性別でみると、「雨水を蓄え、洪水や濁水を防ぐ働き」では〈男性〉(58.2%)が〈女性〉(47.5%)より10.7ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き」では〈男性50歳代〉が73.4%と高くなっている。「雨水を蓄え、洪水や濁水を防ぐ働き」では〈男性50歳代〉が68.4%、〈男性65～69歳〉が62.2%と高くなっている。「多様な生物の生育・生息の場としての働き」では〈女性30歳代〉が

45.8%、〈女性40歳代〉が39.7%と高くなっている。「自然に親しみ、人の心を和ませ安らぎを与える働き」では〈女性20歳代〉が42.9%、〈女性65～69歳〉が38.5%と高くなっている。「空気をきれいにしたり、騒音を和らげるなど環境を快適に保つ働き」では〈男性20歳代〉が37.5%と高くなっている。「生活に必要な木材や燃料チップ、きのこなどを供給する働き」では〈女性20歳代〉が25.7%と高くなっている。

[居住環境別・地域別・市町別]



居住環境別でみると、「二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き」では〈商店街〉が69.7%と高くなっている。「生活に必要な木材や燃料チップ、きのこなどを供給する働き」では〈商店街〉が15.2%と高くなっている。

地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

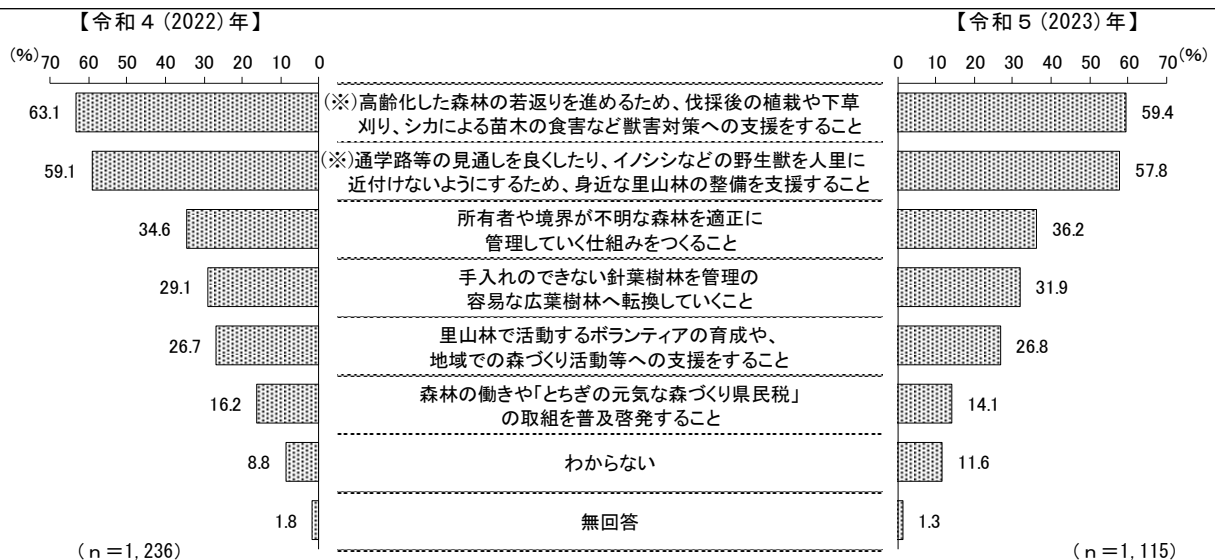
市町別でみると、「二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き」では〈宇都宮市〉が70.2%と高くなっている。

(2) 「とちぎの元気な森づくり県民税」の取組の中で重要なもの

問25 栃木県では、「とちぎの元気な森づくり県民税」を活用して、本県の森林を元気な姿で将来へ引き継いでいくための様々な取組を行っています。

「とちぎの元気な森づくり県民税」の取組の中で、あなたが特に重要と思うものはどれですか。次の中から3つまで選んでください。 [n=1,115]

- | | | |
|---|--|-------|
| 1 | 高齢化した森林の若返りを進めるため、伐採後の植栽や下草刈り、シカによる苗木の食害など獣害対策への支援をすること | 59.4% |
| 2 | 手入れのできない針葉樹林を管理の容易な広葉樹林へ転換していくこと | 31.9 |
| 3 | 通学路等の見通しを良くしたり、イノシシなどの野生獣を人里に近付けないようにするため、身近な里山林の整備を支援すること | 57.8 |
| 4 | 里山林で活動するボランティアの育成や、地域での森づくり活動等への支援をすること | 26.8 |
| 5 | 所有者や境界が不明な森林を適正に管理していく仕組みをつくること | 36.2 |
| 6 | 森林の働きや「とちぎの元気な森づくり県民税」の取組を普及啓発すること | 14.1 |
| 7 | わからない | 11.6 |
| | (無回答) | 1.3 |

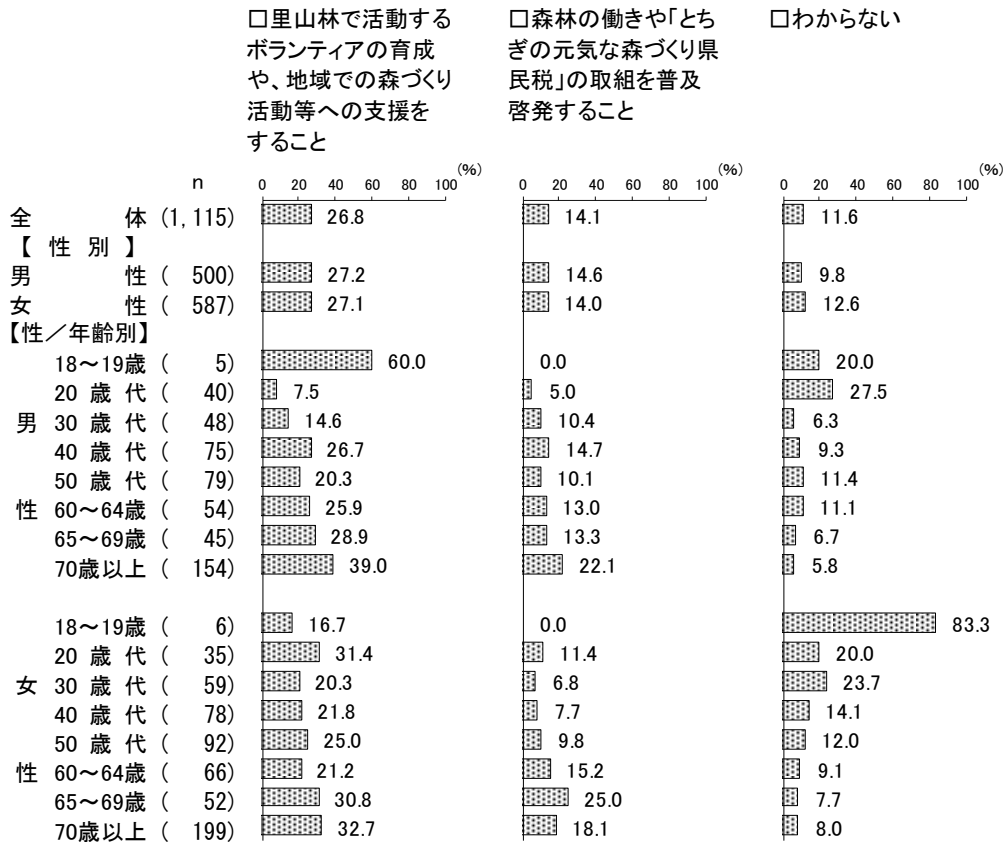
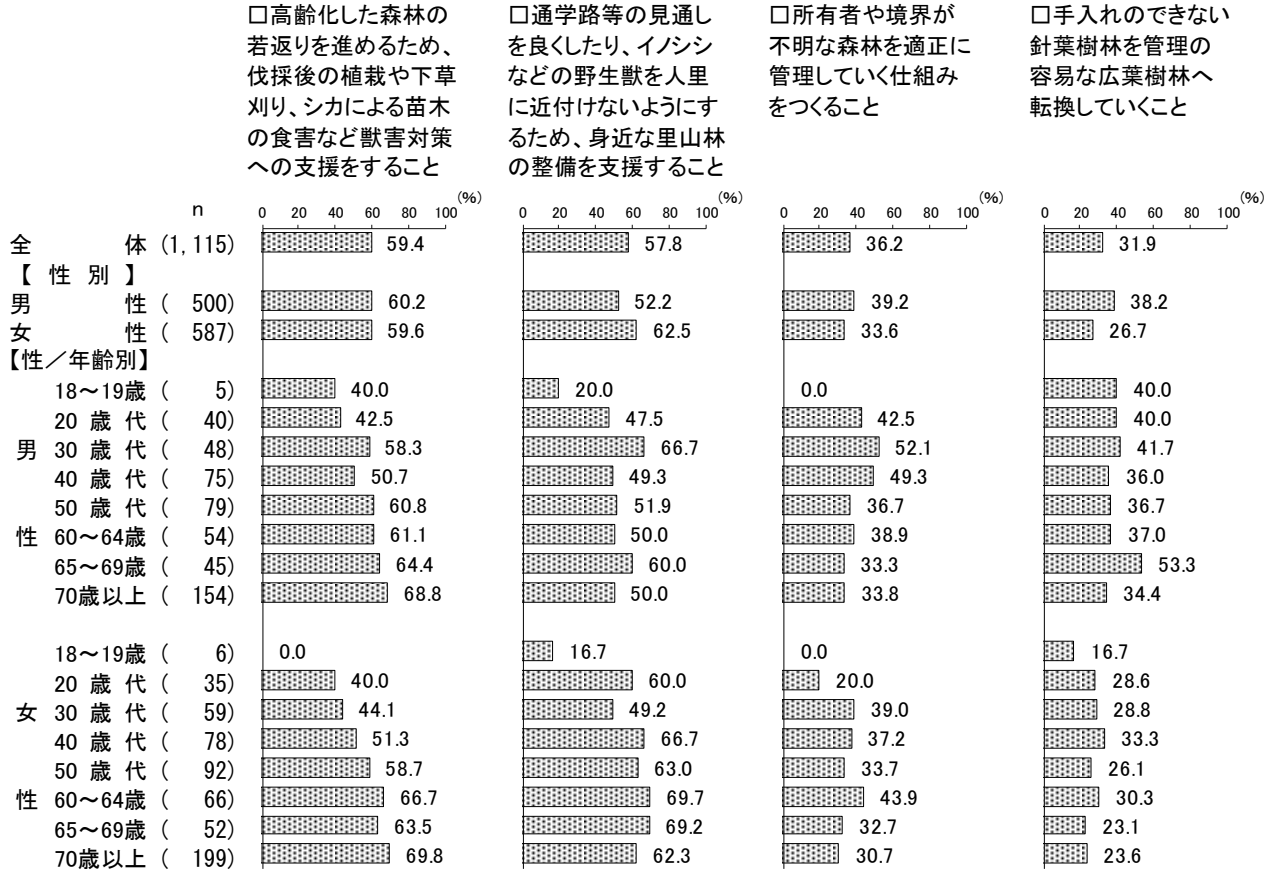


(※) 今回の調査では、前回(令和4(2022)年)の調査から以下の選択肢が変更になっている。
 ・(R4) 「高齢化した森林の若返りを進めるため、皆伐後の植栽や下草刈り、獣害対策などへの支援をすること」
 ⇒(R5) 「高齢化した森林の若返りを進めるため、伐採後の植栽や下草刈り、シカによる苗木の食害など獣害対策への支援をすること」
 ・(R4) 「通学路等の見通しを良くしたり、野生獣を人里に近付けないようにするため、身近な里山林の整備を支援すること」
 ⇒(R5) 「通学路等の見通しを良くしたり、イノシシなどの野生獣を人里に近付けないようにするため、身近な里山林の整備を支援すること」

全体で見ると、「高齢化した森林の若返りを進めるため、伐採後の植栽や下草刈り、シカによる苗木の食害など獣害対策への支援をすること」(59.4%)が6割弱で最も高く、次いで「通学路等の見通しを良くしたり、イノシシなどの野生獣を人里に近付けないようにするため、身近な里山林の整備を支援すること」(57.8%)、「所有者や境界が不明な森林を適正に管理していく仕組みをつくること」(36.2%)、「手入れのできない針葉樹林を管理の容易な広葉樹林へ転換していくこと」(31.9%)の順となっている。

前回(令和4(2022)年)の調査結果と比較すると、「手入れのできない針葉樹林を管理の容易な広葉樹林へ転換していくこと」が2.8ポイント増加している。一方、「高齢化した森林の若返りを進めるため、伐採後の植栽や下草刈り、シカによる苗木の食害など獣害対策への支援をすること」が3.7ポイント減少している。

[性別・性／年齢別]

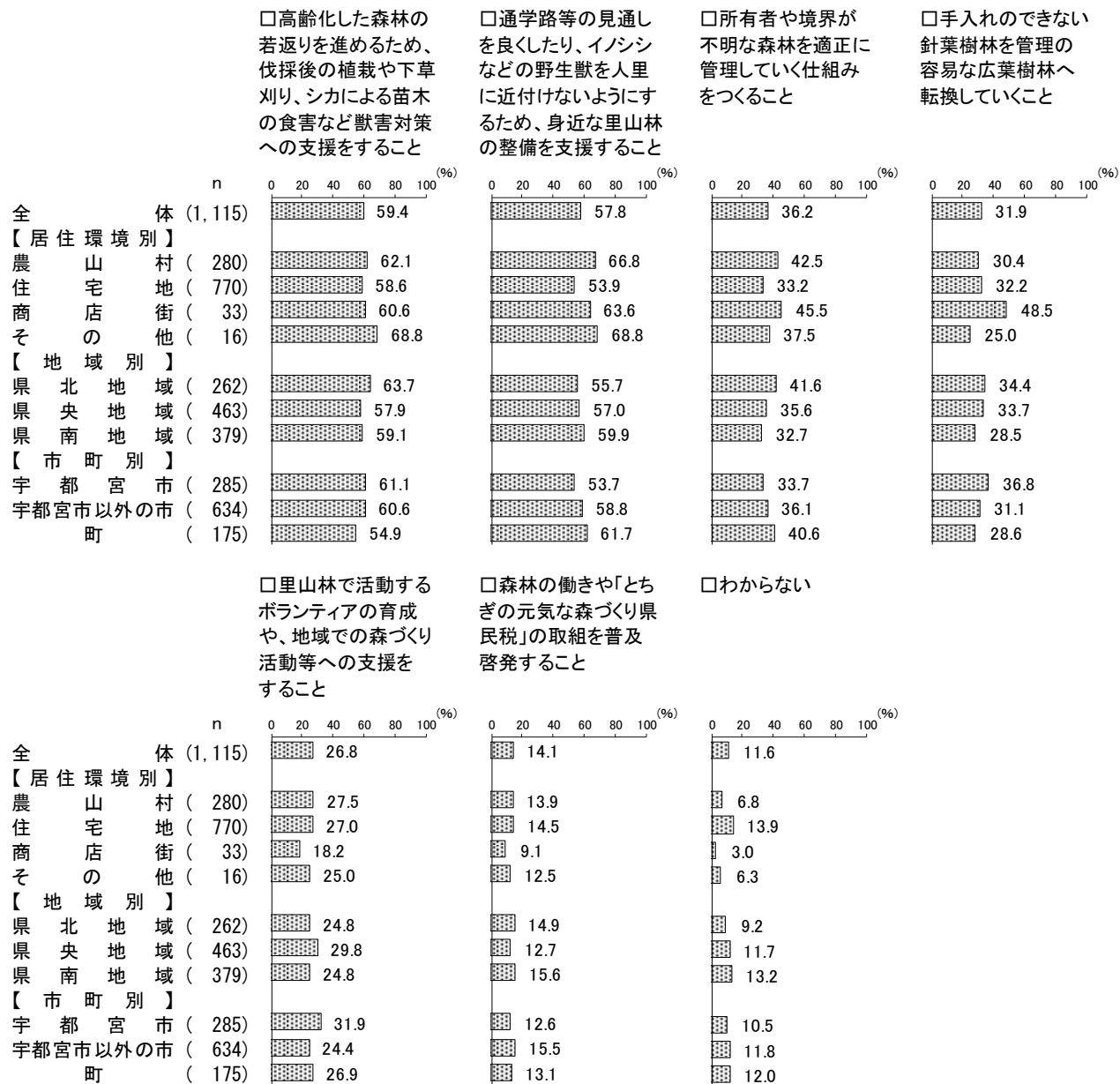


性別でみると、「手入れのできない針葉樹林を管理の容易な広葉樹林へ転換していくこと」では〈男性〉(38.2%)が〈女性〉(26.7%)より11.5ポイント高くなっている。「所有者や境界が不明な森林を

適正に管理していく仕組みをつくること」では〈男性〉(39.2%)が〈女性〉(33.6%)より5.6ポイント高くなっている。一方、「通学路等の見通しを良くしたり、イノシシなどの野生獣を人里に近付けないようにするため、身近な里山林の整備を支援すること」では〈女性〉(62.5%)が〈男性〉(52.2%)より10.3ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「高齢化した森林の若返りを進めるため、伐採後の植栽や下草刈り、シカによる苗木の食害など獣害対策への支援をすること」では〈女性70歳以上〉が69.8%と高くなっている。「通学路等の見通しを良くしたり、イノシシなどの野生獣を人里に近付けないようにするため、身近な里山林の整備を支援すること」では〈女性60～64歳〉が69.7%と高くなっている。「所有者や境界が不明な森林を適正に管理していく仕組みをつくること」では〈男性30歳代〉が52.1%と高くなっている。「手入れのできない針葉樹林を管理の容易な広葉樹林へ転換していくこと」では〈男性65～69歳〉が53.3%と高くなっている。「里山林で活動するボランティアの育成や、地域での森づくり活動等への支援をすること」では〈男性70歳以上〉が39.0%と高くなっている。「森林の働きや「とちぎの元気な森づくり県民税」の取組を普及啓発すること」では〈女性65～69歳〉が25.0%と高くなっている。

[居住環境別・地域別・市町別]



居住環境別でみると、「通学路等の見通しを良くしたり、イノシシなどの野生獣を人里に近付けないようにするため、身近な里山林の整備を支援すること」では〈農山村〉が66.8%と高くなっている。「所有者や境界が不明な森林を適正に管理していく仕組みをつくること」では〈商店街〉が45.5%と高くなっている。「手入れのできない針葉樹林を管理の容易な広葉樹林へ転換していくこと」では〈商店街〉が48.5%と高くなっている。

地域別でみると、「所有者や境界が不明な森林を適正に管理していく仕組みをつくること」では〈県北地域〉が41.6%と高くなっている。

市町別でみると、「里山林で活動するボランティアの育成や、地域での森づくり活動等への支援をすること」では〈宇都宮市〉が31.9%と高くなっている。